



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス JSQC規格「根本原因分析 (RCA) の指針」について
- 2-私の提言 “QCサークル活動”を使ってみては、いかがでしょうか
- 2-ルポルタージュ 第444回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第151回講演会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第438回事業所見学会ルポ
- 4-行事案内 / JSQC選書新刊 / 論文募集 / 2024年12月の入会者紹介

JSQC規格「根本原因分析 (RCA) の指針」について

原案作成委員会委員長 中條 武志

RCAに関する推奨事項をまとめた JSQC-Std 62-001が発行されました。

規格開発のわらい

近年、事故、品質トラブル、品質不正の報道を聞くことが多くなりました。これらの原因を調べてみると、「人の不適切な行動」(知識・スキル不足、意図的な不遵守、意図しないエラーなど)に起因するものが少なくありません。

人の不適切な行動の特徴を一言で言えば、個々の発生頻度は低いが、あらゆるところで起こる可能性があることです。このような問題を防ぐには、製品・サービス又はその生産・提供プロセスで起こり得る失敗を系統的に洗い出し、リスクの大きなものに対してあらかじめ対策を行う「未然防止活動」が大切になります。

ところが未然防止活動を徹底して行っていないと、類似の原因による問題が様々なところで次々に発生します。このため、無視できないような事故・品質トラブル・品質不正が発生した場合又は発生する恐れがある場合には、起因となった個別の原因を見つけて取り除くことに加え、未然防止活動の弱さを追究し、その改善を図ることが大切になります。このような分析は、根本原因分析 (Root Cause Analysis、以下、RCAと略す) と呼ばれます。

本規格は、このようなRCAの実施を支援することを目的に、RCAの基本的

な考え方、RCAの実施手順に関する推奨事項、RCAの組織的な推進・運営に関する推奨事項をまとめたものです。

開発から発行までの経緯

2021年7月の標準委員会において開発が承認され、JSQC-TR 12-001「テクニカルレポート品質不正防止」の後に作業を開始することが決まりました。

2023年10月～2024年1月に品質保証・人間信頼性の専門家10人からなる原案作成委員会が開催され、既存の書籍や論文を参考にしながら検討が行われ、原案が完成しました。

その後、様々な分野の実務家を加えた審議委員会 (2024年5月～7月) が開催され、パブリックコメントの募集や集まったコメントに対する対応の審議を経て規格最終案がまとまりました。

2024年9月25日に理事会でこの最終案が承認され、発行に至りました。

規格の内容

本規格の構成は、1章「適用範囲」、2章「引用規格」、3章「用語と定義」、4章「RCAの基本」、5章「RCAの実施手順に関する推奨事項」、6章「RCAの組織的な推進・運営に関する推奨事項」となっています。

4章では、1) RCAを理解する上で大切となる人の不適切な行動の4つのタイプ、2) これらの行動を引き起こす要因を局所要因と組織要因に分けて捉える

ことの大切さ、3) RCAの基本的な流れとその難しさ、4) 不適切な行動だけでなく望ましい行動を分析することの必要性、などについて解説しています。

その上で、5章ではRCAの実施手順を8つのステップ (事例の収集、事例の選定、事象の整理、局所要因の分析、組織要因の分析、対策の検討、効果の確認) に分け、活用するとよい具体的な手法、判定のためのフローチャート、要因や対策を考える際に参考となる表などを示しながらどう進めるのがよいのかについて詳しく解説しています。

最後の6章では、1) RCAの活用に当たって経営層がどう行動するのがよいのか、2) 分析チームの編成と運営において考慮すべき事項、3) 未然防止活動の推進に当たって注意すべき点、をまとめています。

規格の講習会

2025年1月29日の午後、100名を超える参加者が集まり本規格の講習会が開催されました。原案作成委員会のメンバーによる解説の後、1) 未然防止活動とRCAの関係、2) なぜなぜ分析ではどうしてだめなのか、3) 局所要因の説明の仕方、4) 人の望ましい行動を集める方法、5) 集積RCAを行う場合の事例の件数、6) 不適切な行動と適切な行動、失敗と犯罪の切り分け、7) 抽象的な対策にしないためのポイント、などに関する熱心な質疑が行われました。

● 私の提言 ●

“QCサークル活動”を使ってみては、いかがでしょうか

グローリー(株) 名倉 三加代



QCサークル活動は、「有効な経営ツール」と考えます。なぜなら、次の9つの働きが同時に担え、その先にある、「エン

ゲージメント」の向上にもつながるからです。

①人材育成⇒問題や課題の根本的解決力を身につけると共に、ベテランの技術伝承、ひとり一人の能力を互いに高め合うことで、固有技術の向上もでき、さらには会社組織を担う「リーダー」の養成にもなります。

②自主性・自律性の醸成⇒「自らが考え、それが反映され、納得して動く」ことで、仕事に面白みや、やりがいを感じられるようになります。自分たち

が決めたことは実行性・定着性も良く、仕事の効率アップにつながります。

③全社・全部門、全業種に適用⇒実務者の部門間交流ができ、一体感と協力意識の醸成、部門の壁を破ることもつながります。

④チームワークの向上⇒一人では成し遂げられない困難なことに対しても、互いの知恵と能力を出し合い、支え合うことで、人が育ち、大きな成果が出せます。

⑤人間関係を良くする⇒苦楽を共にすることにより、互いを認め、感謝の気持ちを持ち、何でも言い合える仲間がつくれます。

⑥改善プロセスを会社の財産（水平展開・蓄積）⇒結果だけでなく、「なぜ、そうなったか」を論理的に残すことで、応用でき、広く水平展開が図れます。

個人から職場、そして会社へとノウハウの蓄積ができます。

⑦隠蔽体質の予防⇒実務者自らが「現状の悪さ」に気づき、オープンにすることで、大きな問題になる前に対策することができます。それを褒めることにより、悪いことを隠さず、すぐ報告する習慣がつかます。

⑧管理者の仕事（方針、目標の達成・業務改善・人材育成・職場風土の改善）を楽にする⇒部下に自ら考え、動いてもらえることにより、目先のことに追われず、管理者本来の仕事（将来、自分の職場をどう良い方向に変えていくかを考えること）ができるようになります。

⑨改善による業績貢献⇒実務者自らが、業務のやり方を見直すことにより、根本的な改善ができ、真の成果が出せます。

言うまでもなく、生き生き元氣な「人と職場」（働きがいのある職場）や強靱で風通しの良い企業風土は、一朝一夕では実現できません。試しに“QCサークル活動”を使ってみてはいかがでしょうか。

第444回
事業所見学会
ルポ新日本理化株式会社
京都R&Dセンター

2024年7月26日(金)に新日本理化株式会社 京都R&Dセンターにて、第444回事業所見学会が開催され25名が参加しました。新日本理化株式会社は1919年に「大阪酸素株式会社」として、京都宇治川の水を電気分解し、製造した酸素ガスの販売や、天然油脂の水素化による石鹼の原料や高級アルコールの製造をすることから始まり、今日では日用品、建築資材、電材などの様々な素材を製造されています。創業100周年を迎え、「開放」、「融合」、「挑戦」のコンセプトのもと2021年5月に新たな価値創造拠点として開発されたのが京都R&Dセンターです。通常、研究開発拠点は秘匿とされますが、こちらのセンターでは見学会や子供向けのセミナー等を実施し、研究開発の最先端設備を広く開放されています。施設内レイアウトは、人間工学に基づいた色彩を用いたエリア分けや、個人の机

は持たずにフリーアドレスにすることによって、部署、役職を超えた交流ができる等、前衛的な取り組みをされていました。品質管理に関しては、ISO9000に則り客観的に証明できる仕組み作りや、4M変更管理の強化、LIMSの活用によりヒューマンエラーや検査不正防止と省力化などの取り組みを説明いただきました。今回、最も印象的だったのが、隅々まで整理整頓が行き届き、汚れが一つもない施設の美しさ。これは異物混入防止など、品質維持の基礎活動であると言われていたのが心に残りました。最後に、業務がご多忙中にもかかわらず、新日本理化株式会社 京都R&Dセンターの皆様には、快く充実した研究開発施設の見学をお受け下さり、とても丁寧な対応とご説明をいただきましたことに心より御礼申し上げます。



藤平 尚子 (株岩崎電機製作所)

第151回 講演会 ルポ

ブリヂストンのDXを 支えるソリューション 品質管理の取り組み

2024年7月26日(金)に第151回(中部支部第64回)講演会がオンラインで開催された。講演者は(株)ブリヂストン 新事業・ソリューション品質経営部門の部長である西崎友康氏で、ブリヂストンでのDXを支える品質管理の取り組みについてご講演いただいた。

はじめにブリヂストンの使命として掲げている「最高の品質で社会に貢献」をベースとし、Bridgestone 3.0にて制定したソリューション化に向けたビジョンを実現するための様々な取り組みについて紹介いただいた。

つづいて、1960年代からのデミング・プランの基本思想「良い品質の製品は、良い体質の会社から生まれる」に基づき、体質改善に取り組んできたブリヂストンのTQMの歴史および活動内容について説明いただいた。

体質改善のための全社各職場で取り組む課題として7つのポイント(品質保証とコスト改善による競争力

の増強/独創的新製品の開発/流通機構の整備と販売の伸長/利益確保の販売/能率的な業務と定員制の実施/教育訓練の徹底/権限の明確化と責任体制の確立)を示し、5つの合言葉(PDCAを身につけよう/5W1Hを活用しよう/生きた標準化を進めよう/データでものをいおう/重点管理をおこなおう)を基本動作に据え、目標達成を図った活動である。

最後に、ブリヂストンのDX化を支えるソリューション品質管理の取り組みの事例として、運送事業者向けの「トータルパッケージプラン(TPP)」を紹介いただいた。

このサービスは、タイヤの選定、管理、メンテナンスを一括で提供し、さらにタイヤの状態を遠隔でモニタリングするデジタルソリューションもオプションとして提供するものである。リアルとデジタルを組み合わせたこれらのソリューションが運行の安心・安全を支える先進的なサービスである。

紹介いただいた体質改善の取り組みやTPPを事例とした顧客経験価値(ソリューション品質)管理の考え方、手順ついて、DX化を進めていく上で、大いに参考にしたいと感じたご講演であった。

磯部 大策(コマツ)

第438回 事業所見学会 ルポ

松本記念音楽迎賓館

2024年9月6日に「閑静な迎賓館で、音に関する品質を考えてみませんか?」と題した見学会が開催され、14名が参加した。東京・世田谷にある同館は音響機器メーカー・パイオニア(株)の創業者、松本望の自邸だった。一部は改装されて音楽ホールとなり、音楽振興のために広く利用されている。新たにホールに備えられたパイプオルガンは館の「顔」(同館ウェブサイト)となっている。居室、庭園、茶室、創業者が新製品のアイデアを練った工作室は往時のままで、製品展示室とあわせて見学した。

見学会はパイオニアのグループ会社で高性能スピーカーを開発・製造する(株)テクニカル オーディオ デバイス ラボラトリーズ(TAD)の協力のもと実現した。まず、迎賓館館長とTADから参加のチーフエンジニアの案内により館内と庭園を見て回った。その後、ホールにてチーフエンジニアと本学会の見学会企画者が対談する形でTADにおける音質、ものづくり、ブランドについての解説があった。参加者からも多くの質問や

発言が寄せられた。私はこのやり取りを通して、スピーカーの音質評価をめぐる主観と客観の交錯に興味を持った。音質の数値目標はあるものの、主観的に表現する言葉も多々あり、顧客の声も重要であるという。また、開発・製造を匠の業が支えているが、同社スピーカーは工芸品ではなく、工業製品であるとの指摘もあった。信頼性や生産性などの基本をおろそかにしていないことが確認された。

対談後は「超絶高音質体験」と銘打った試聴機会が設けられた。ホールには子どもの背ほどのスピーカーが搬入されており、適切な位置で聞くと大きなスピーカーの存在が消えるとの説明に、場所を探し求めてうなずく人もいた。締めくくりには同館保有のパイプオルガンやアンティーク楽器の演奏も体験できた。館長が内部機構を指し示し、参加者が交代で鍵盤を押していった。機構の動きも音色も意外なもので歓声があがった。見学会を通して、参加者の一体感が高まったことも印象的だった。

迎賓館の厚意のもと、チーフエンジニアと学会企画者との綿密な連携、準備により有意義な見学会となった。迎賓館、TAD、行事担当の皆様方に感謝申し上げます。

大原 悟務(同志社大学)

行事案内

●JSQC規格「プロセス保証の指針」講習会

日時：2025年2月27日(木)13:30~17:30

会場：オンライン (Zoomミーティング)

講師：中條 武志 氏 (中央大学)

プログラム：

1. JSQC規格「プロセス保証の指針」制定のねらい
2. プロセス保証の役割と構成要素
3. プロセス保証の基本・進め方・ツール(1)
標準化と工程異常の対応
工程能力の調査・改善
4. プロセス保証の基本・進め方・ツール(2)
トラブル予測・未然防止、検査・確認
5. 全体討論 (質疑応答)

詳細・申込：https://jsqc.org/std21-001_2025/

●第145回クオリティトーク (東日本)

テーマ：統計的工程管理 原点回帰から
新機軸へ

ゲスト：仁科 健 氏 (愛知工業大学)

日時：2025年3月14日(金)15:00~17:00

会場：オンライン (Zoomミーティング)

詳細・申込：https://jsqc.org/145qtalk/

●第183回シンポジウム (東日本)

テーマ：新たな市場を拓く商品開発プロセスの3つの視点

日時：2025年3月27日(木)14:00~17:00

会場：日科技連 東高円寺 3階A研修室

プログラム：

開催主旨「商品開発プロセス3つの視点」

椿 広計 氏 (統計数理研究所)

講演(1)「価値探索の鳥瞰—事業はどこから来てどこに進もうとしているか—」(仮題)

石津 昌平 氏 (青山学院大学)

講演(2)「価値創造の効率—自社得意技術を活用した新しい価値提供のために—」(仮題)

細川 哲夫 氏 (リコー)

講演(3)「リスクベースの価値創造

—リスクアセスメントを事業開発に導入する—」(仮題)

山本 渉 氏 (慶應義塾大学)

パネルディスカッション

「魅力ある商品の開発はどうあるべきか」

司会：廣野 元久 氏

パネラー：上記登壇者他

詳細：https://jsqc.org/183sympo/

●第146回QCサロン (関西)

テーマ：ひとり一人の"がんばり"にスポットライトを！～グローリー(株)のQCサークル活動について～

日時：2025年4月8日(火)19:00~20:30

会場：オンライン (Zoomミーティング)

講演者：名倉 三加代 氏 (グローリー)

詳細・申込：https://jsqc.org/146qcsalon/

●第137回研究発表会 (本部) 発表募集

日時：2025年5月24日(土)

会場：日本科学技術連盟・東高円寺ビル

(1)申込期限

発表申込締切：3月12日(水)

予稿原稿締切：4月21日(月)必着

参加申込締切：5月15日(木)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

https://jsqc.org/137technical_cfp/

(3)参加申込

3月中旬にホームページにてご案内します

●(予告) 第53回年次大会 (本部)

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、
報文、技術ノート、調査研究論文、
応用研究論文、投稿論説、
研究速報論文、クオリティレポート、
レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

日時：2025年11月14日(金)・15日(土)

会場：京都大学 吉田キャンパス ほか

事務局

JSQCホームページ：https://jsqc.org/

本部：E-mail：jimukyoku@jsqc.org

中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：E-mail：kansai@jsqc.org

2024年12月の入会者紹介

2024年12月23日の理事会において、下記の通り正会員21名、準会員1名の入会が承認されました。

.....
(正会員21名) ○平林 裕司 (パリュエグロ) ○高田 泰祥 (紅忠サミットコイルセンター) ○高橋 裕 (荻野製作所) ○船石 篤史○永井 聡 (LIXIL) ○仲野 厚人 (日昌製作所) ○赤見吉昭 (東芝ITコントロールシステム) ○陳 晟敏・木下 くるみ (岩田硝子工業) ○日置 克彦 (コニカミノルタ) ○内山 喜道 (ユウメック) ○織田信 (クボタ) ○水野 達也 (三菱ケミカル物流) ○重松 勝一郎○永瀬 貴由 (パナソニックオペレーショナルエクセレンス) ○内野 祐樹 (三菱電機) ○星名 保(鶴田電機)○吉村 高明 (パナソニックインダストリー) ○落合雅大 (デンソー) ○青柳 康夫 (沖電気工業) ○山中 俊夫 (川崎重工業)

.....
(準会員1名)

○渡邊 美月 (横浜国立大学)

.....
名誉会員：25名

正会員：1544名

準会員：70名

職域会員：49名

賛助職域会員：12名

賛助会員：163社233口

公共会員：11口

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書37」好評発売中

●JSQC選書37 (156ページ)

書名：現場から経営を考える

自らの業務を起点に組織全体の経営を洞察する

著者：木内 正光

判型等：四六判、並製本

定価：1,760円(税込) → 学会員特典価格：1,408円(税込)

申込方法：https://jsqc.org/jsqcselection/

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。